

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0190503227), 法人名 (有限会社エーアステス), 事業所名 (認知症対応型ナーシングホームしあわせ平岸), 所在地 (〒062-0932 札幌市豊平区平岸2条5丁目1-11), 自己評価作成日 (令和5年9月16日), 評価結果市町村受理日 (令和6年1月9日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_022\_kihon=true&JigvosyoCd=0190503227-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和5年12月7日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、ご入居者様と職員、又、ご入居者様同士の会話が、多く笑い声の絶えない施設となっております。ご入居者様は自身の要望を都度職員に伝えて下さり、その思いにこたえられる様、職員で話し合いレクリエーションに取り組む、又は会社に相談する、といった対応にて、その方らしい生活の場となる様に努めております。また、当施設は街中に位置している事もあり季節折々の町内の行事についても町内の方々と触れ合う機会が多く見られます。施設内での暮らしにも、めりはりをつける為、無理のない役割を担って頂き、互いに「ありがとう」の気持ちを声に出し、毎日をごして頂いております。24時間看護常駐の為、看護との連携を測ることで毎日の様子の変化、状態確認が行なっております。ご家族様とも密に連絡をとり安心してお預け頂ける様に努めております。これからも笑いがたえず笑顔で過ごされますように支援して参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地下鉄駅から徒歩圏内の4階建てビルの1階を占有する改造型1ユニットの事業所である。2年前に運営形態を変更し、特定疾患等を持つ認知症の人の終の棲家として運営している。介護職員のほか看護師が24時間常駐し、介護と看護の両面から利用者の生活を支えている。協力医療機関の医師とも連携が密であり、利用者、家族はもとより、職員の安心につながっている。感染症5類移行を機に、徐々に行事や地域交流が行われ、利用者は月2回隣接地で開催される平岸マルシェで近隣住民と一緒に買い物を楽しんでいる。事業所内では職員間のコミュニケーションが良く、利用者にもよく声を掛け見守り、自立支援を念頭に、いま必要な事を支援している。皆で歌を唄ったり、おやつ作りをし、編み物やぬり絵をするなど、それぞれが楽しく過ごす時間構成に配慮している。ブログでの情報発信や、利用者や家族が共に楽しめる「思い出ファイル」を作成するなど、現状の課題に向き合いながら、さらなる質向上に向け取り組みを進めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and their evaluation.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は入居者様、ご家族様、職員皆が見える所に掲示し常に頭に入れながら介護にあたっております。	事業所理念は、全職員に浸透しており、利用者の笑顔が多くなることを意識して、日々の実践に取り組んでいる。職員は、半年ごとに自身のケアに向き合い、理念に沿ったサービスであるか振り返る機会になっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	施設前で行われる平岸マルシェ、町内の行事には積極的に参加し町内の方々との交流を図っております。	町内会から地域広報誌が届けられている。隣接地で月2回開催される「マルシェ」で利用者が買い物をしたり、住民たちと挨拶を交わしている。よさこい踊りや子供神輿を見学するなど、控えてきた地域交流の再開に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に入居者様の現状の説明を行うとともに理解や支援の行ないについてお話しております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催しており、ご家族様、包括、町内の方々へも声掛けさせて頂いております。ご意見なども頂戴しサービス向上に努めております。	感染状況を見極め、書面及び対面で開催している。感染症5類移行後に参集協力を得た会議は自己紹介から始まり、円滑な会議に努めている。話し合いを通して包括支援センター職員の意見を受け、面会対応の工夫、改善につなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政の窓口とは、制度の運用について疑問などが出てきたときは指導を頂いております。	行政とは、主に管理者が対応している。関係部署の職員とは良好な関係を構築し、制度上の疑問や運用課題を相談し助言等を仰いでいる。保護費関係や介護認定更新でも情報を共有し、利用者の支援に生かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月月に1度、身体拘束の資料を元に研修を行いファイルしております。また身体拘束理解を深め職員全員が周知する事で拘束も抑制もない介護に取り組んでおります。	運営推進会議の場で、適正化委員会と勉強会を行っている。また、11月に外部講師を招いた虐待、身体拘束に係る研修を行なっている。ケア面では利用者の意見を吸い上げて検討し、結果を利用者に報告をするとともに、全職員の認識強化を図っている。やむを得ず拘束に至る場合は所定の手順を踏み、定期的な検証を行いながら実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営推進会議で話し合いを行い、全職員が虐待を理解しております。また、内部、外部研修でも定期的に学んでおります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修を行い権利擁護を理解するとともに個々の代弁者となれるように、それぞれの権利を理解しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をむすぶ際は契約内容、重要事項など十分な説明を行い、理解、納得して頂いてから契約をして頂いております。解約、改定についても不安や疑問のないように行っております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様及びご家族様との連絡をとり、ご意見、ご要望をお聞きするように心がけております。苦情、不満などがあつた際は傾聴し運営に反映できるようにしております。	家族と接する面会や電話連絡の際は、利用者の状況を伝え意見を聞くように努めている。面会方法や居室備品の取り替えなど家族の率直な意見を大切にしてい、生活環境の向上に反映している。毎週発信のブログで、事業所の取り組みや利用者の様子を報せている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員の意見、提案のできる機会を設け意見交換を行っておりますが日頃より意見、提案がある時は都度話し合いを行っております。	職員の様々な意見や提案は話し合い、実践・実行に努めている。事業所内の意思疎通が良く、職員それぞれが得意分野で力を発揮し、総意の下で協力しながら、運営やサービス、就業環境がより良くなるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状況を知り向上心を持って仕事に取り組めるように常にコミュニケーションを取りながら働きやすい環境作りを行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修期間を十分に設定しケアの共有を行っております。また、外部、内部研修の参加、報告を行い、職員の知識、技術などスキルアップに繋がるようにも努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	自社内、別事業者同士での情報交換に努めています。webを活用した研修会に参加します。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の十分な面談とご家族様の希望や思いを良くお聞きし利用者様の個性を考慮したご本人らしい生活が送れるように努め信頼関係を築いております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様だけではなく、ご家族様の要望にも真摯に向き合い、困っていることや不安なことに丁寧に回答することで良好な関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時点において、ご本人様や家族様の不安を傾聴し、入居したことで解決につながるような環境作りをし、ご本人様に寄り添ったケアをするように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段から入居者様と会話を行いながら、互いに支え合える体制を取ることができており、良好な関係を築くことができております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族来訪時や電話での連絡の際、利用者様の状況や要望を報告・共有する事でご家族様との信頼関係も図る事ができております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、コロナ陽性者が再度、増えてきた為、窓越しでの面会となっておりますが、ご本人との電話、又、ご本人様の様子などを細かく話しをさせて頂いております。 又、居室内もご本人らしい居室になる様心がけております。	面会制限が緩和されつつあり、家族や親しい友人との関係が継続できるよう、電話や手紙等も取り次いでいます。コロナ禍以降、初の正月帰省が予定されている。利用者個々の生活歴を理解し、大切な人や場所、場面を話題にした会話を心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなどを行ない入居者様同士の会話が行なえる場の提供と、フロアでの席の考慮を、行ないながら、孤立のない様に努めております。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も継続してよい関係が保てる様、ご家族様からの相談や支援に努めております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の会話の中から、思いや希望をお聞きする機会が多く又、その事に添ったサービスが行なえるよう努めております。	職員は、常に利用者を見守り、言葉掛けを多くする中で意向を聞き取っている。言葉での表現が難しい人は、二者択一の選択法や暮らしの様子から職員の気づきを持ち寄り、生活歴や家族情報を加えて本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に、ご本人様・ご家族様より入居前の生活について十分にアセスメントを行なわせて頂いております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活で現状を把握し、職員で情報の共有を行い、入居者様一人一人の体調や気分等にに応じた日常生活が送れるように努めております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のカンファレンスにより必要なケアを見極め、介護計画の作成と見直し修正を行なっています。又、職員・ケアマネジャー・看護師等により意見・要望等も参考にしています。	本人と家族の意向を聞き、介護、看護の視点から6か月、状態の変化に応じ現状に即した介護計画を作成している。計画の実践は、毎日の介護記録で確認し、定期のモニタリングやカンファレンスを通して、本人がより良く過ごすための支援方法を提案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の変化や気づき等を記録し職員間での情報共有を行なっております。又、ケアプランの見直しにも活用しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看護師、又、同系列の事業所と連携を図り、その時々ニーズにあったサービスが出来るように取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会との密なコミュニケーションを図り、夏にはよさこいを見に行く、又、避難(防災)訓練を行なう等、地域資源の活用をさせて頂いております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から、かかりつけ医希望など、ご本人・ご家族様の意向にそって受診されており、個々のかかりつけ医との連携が取れています。又看護師付き添いのもと受診対応行なっております。	現在、全員が協力医療機関の訪問診療を利用している。精神科や整形など専門科は看護師が付き添い、特変があれば速やかに家族に報告している。24時間看護師に相談できる状況であり、訪問医とも密接な連携体制である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身共に異常が生じた時はすぐに看護師に報告相談し、適切な処置や受診が受けられるように日常の健康管理を行なっております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関と相談しながら、ご本人様やご家族様の意向も聞きながら対応しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、又、終末期につきましては契約時にご本人・ご家族様と話しをさせて頂いております。また状態の変化と共に医師への相談と都度、事業所で出来ることを伝えさせて頂いております。	利用契約時に指針を説明するとともに、状態の変化や重度化では医師や看護師と相談し、家族を交えて今後の方針を確認している。現運営体制では、まだ看取りケアの実践はないが、できる限り利用者、家族の望む支援に取り組む方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応策のマニュアルを作成し、応急手当等は看護師や消防施設での訓練などで行なっています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施と研修会を行なっています。又、避難の際に動線の確保を念頭にした環境整備に努めています。又、ハザードマップにより避難場所の確保なども行なっております。	年2回昼・夜を想定した火災発生による避難訓練を実施し、利用者も参加している。車椅子利用者が多く、非常の際に安全な移動方法を検証し、反省点は次回の訓練につなげている。地域には運営推進会議で災害時協力の要請を行い、また、各種の備品や防寒用品を確保している。	地震や各場面を想定した避難訓練は年度内実施を計画しており、非常災害時に安全、かつ迅速に対応できるように、その実施に期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症・パーキンソン症の伴う自立度の低下の中で、利用者様の自尊心の尊重を心掛けて、声掛けの工夫やケアを行なっております。特に排泄に関するケアはより慎重に接するように心がけてます。	毎月の会議の中で、接遇マナーの確認を行い、人格の尊重や権利擁護の認識を高めている。排泄や入浴介助時の配慮や、関わりの中での適切な言葉かけに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中でご利用者様の思いや希望を聞き叶えられるよう支援しています。自己表現が難しい利用者様には代弁できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを崩すことなく、希望に添える様に支援を行なっております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用したり洋服なども一緒に選ぶなど、ご本人を中心に支援しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	レクリエーションの中にも調理を取り入れるなどをして、利用者様の要望に近づけるようになっております。又、食後の食器拭きなど、ご自身から声をかけて下さる様子もみられます。	業者の献立と食事を利用し、アレルギーや嚥下状態に対応している。利用者のできる事で一緒に作業し、レク活動で漬物やスイーツ、差し入れ食材でかぼちゃ団子作りなどを取り入れている。時には、出前寿司も食卓を賑わし、利用者の満足感や笑顔を誘っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎回都度記録し、その方の嚥下状態により、食事形態も変えております。食事・水分が、すすまない時などは介助行なっております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、見守り・介助にて行っており、終了後は口腔内の状態確認にて、清潔保持に努めております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方その方の排泄パターンを把握し、時間で声掛け・誘導を行う事で、失禁やパッドの使用量の減少に努めております。	トイレ排泄が基本であり、個々のパターンを確認し、時間誘導をすることで、失敗の軽減や衛生用品の使用量減に努めている。退院直後のおむつから、リハビリに変更できたケースもある。車いすの人も状態によっては手引き歩行を促し、立位や排泄機能が維持できるように対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーション・ラジオ体操など活用し便秘予防に努めております。又、看護師に排便のない日数を考慮して下剤などの調整を行なって頂いております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日には、その方の入浴時間などをお伝えし、無理強いすることなく入浴して頂いております。又、入浴中は職員との会話を楽しく頂く・浴槽にもご自身のペースで浸かって頂くなど行なっております。(体調考慮の上)	入浴は週2回、午前、午後の時間や入浴順番、同性介助などの希望に沿っている。機械浴槽が新設され、殆どの利用者がゆったりと湯舟に浸かっている。数種の入浴剤を用意し、浴室内での会話は、利用者の本音も聞かれる時間になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や十分な睡眠をとることが出来るよう日中は活動的に過ごしていただき、夜間は照明・温度に配慮して休息・安眠出来る様に支援しています。ご本人からの訴えがある時なども、休んで頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法・用量を把握し、ご利用者様本人の状態に応じて、医師・看護師の指示をおおぎながら支援しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握時、昔のことを話したり、無理なくできる範囲内での役割を担って頂いております。又、季節の行事なども行ない気分転換が行なえるよう支援しております。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	8月よりコロナ陽性者増加に伴い控えておりますが、皆様の声をもとに外出先内容を決めるなど、ご本人の希望に添えられる様支援しております。	コロナ禍以降の外出は、通年通して受診が中心になっていたが、今年度は、天候を見ながら周辺の散歩や地域の祭り見学に出掛けている。利用者が楽しみにしているスーパーへの買い物レクは、状況を見極め、今後の実施を検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理が困難な方が多いですが、ご本人の欲しい物や嗜好品などは買い物を代行したり、支払い時は見守りを行なうなど、お金を使う場の提供を行なっております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が電話を掛けたり、ご家族様からかかってきた際は、ご本人様と直接お話出来るようにしています。また、手紙に関しては代行にてポストへ投函させて頂いております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々、整理整頓・環境整備しています。又、イベントや行事を行なった際は、季節折々の装飾品を利用者様と一緒に作成し、季節を感じて頂いております。	共用空間は家庭的な設えで、清潔保持や温・湿度、換気等に配慮している。大きな窓から外気を取り入れ、季節の移ろいを感じることができている。食事以外は、利用者それぞれが自由に好きな椅子やソファで寛いでいる。壁の装飾は、季節感あるものを創意工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時の席は利用者様同士の関係性に配慮しています。レクリエーション時は利用者様同士のコミュニケーションを取れるように努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れた家具等を持ち込んで頂き、設置しています。頂いた誕生日カード・写真なども飾り、心地よく過ごして頂ける様に努めております。	居室には介護用ベッドが設置され、ロッカーダンスは新しく入れ替えが予定されている。自宅から生活用品や家電が持ち込まれ、ラジカセで音楽を楽しむ利用者も多い。家族写真や職員作成の色紙などを飾り、個性的な居室になっている。状態に合わせて動線を確保している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前に手作りの表札をつけたり、トイレに目印をつけるなど工夫しています。施設内で手すりを設置し動線に物を置かないよう気をつけています。		